

南薩に

4市で日本語講座スタート

鹿児島県南薩地域振興局は南薩4市（枕崎、指宿、南さつま、南九州市）に暮らす外国人向けの日本語講座を本年度から始めた。年5回開催し、3年間続ける計画。語学力向上に加え、地元住民との交流や日本文化に親しむ機会を設けることで、外国人材の定着を目指す。

県地域振興局

県などによると、南薩4市には2024年10月時点の推計で計2076人の外国人が居住する。中でも南



売店で店員に質問する外国人の受講者＝枕崎市の南薩地域産業振興センター

高齢化、人口減対応 ゲームや着付け 住民と交流

薩地区は技能実習生の数が県内で最も多い。かつお節工場や養鶏場などで働く技能実習生が、高齢化や人口減少の続く地域で貴重な担い手になっている。

県と南薩地区の首長らが意見交換する行政懇話会で講座を要望する声があり、同振興局が実施を決めた。初年度の事業費は計378万円で、南さつま市の日本語学校「SLA」が委託を受けた。

講座は9月から各市でスタートし、2回目の講座は9月21日。枕崎市では南薩地域産業振興センターであり、地元のかつお節工場で働くインドネシア人やフィリピン人が参加した。センターの売場で「どれが安いですか」と店員に質問をしたり、指定された商品の値段を調べたりしたほか、鹿児島水産高校の生徒と日本語のゲームを楽しんだ。

職場の同僚3人で参加したフィリピン出身のジョイス・ロマノさん（28）は「難しかったけれど優しく教えてもらった。また受けたい」と意欲を見せた。

残る3市の講座でも、地元住民と交流するカリキュラムが組まれ、書道や着物の着付け体験など日本文化にも親しめる内容となっている。SLAの鹿丸あい子事務局長は「職場の同僚だけでなく、他の職場で働く外国人や地域住民とのつながりを持ち、コミュニケーションが取れるようになってほしい」と話した。

2025年10月2日付13面

* 習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説

南薩(なん・さつ)	振興局(しん・こう・きょく)	状態。	意見交換(い・けん・こう・かん)	懇話会(こん・わ・かい)
人材(じん・ざい)	= 才能があつて、役に立つ人物。	実施(じっし)	委託(い・たく)	= 仕事などを人や組織・団体など
定着(てい・ちゃく)	= 物や場所にしっかり着いて離れないこと。新たな状況がしっかり根を下ろすこと。	頼んで任せること。		
養鶏場(よう・けい・じょう)	= 卵や肉をとるためにニワトリを飼う場所。	同僚(どう・りょう)	= 職場、または地位・役目などが同じ人のこと。	
高齢化(こう・れい・か)	= 人口に対して、高齢者の割合が高くなる			

【問 1】 見出しの空欄に入る語句を次のア～ウから一つ選びましょう。 ()

ア インバウンド効果期待 イ 国際交流拠点を ウ 外国人材定着を

【問 2】 南薩地区の技能実習生は、どのようなところで働きながら実習をしていますか。代表的な職場を二つ答えましょう。

() ()

【問 3】 県内で最も技能実習生の数が多い南薩地区で、技能実習生が労働力の担い手として期待される理由を記事中の語句を使って答えましょう。

()

【問 4】 日本語講座が地元住民と交流するカリキュラムになっている理由を次のア～ウから一つ選びましょう。

()

ア 日本語講座を観光事業につなげ、地域を活性化したいから

イ 職場の同僚だけでなく、他の職場で働く外国人や地域住民とつながりをもってほしいから

ウ 日本のごみ出しのマナーや交通ルールなどを習得してほしいから

【調べてみよう】 あなたの暮らす市町村で実施されている、外国人と地元住民の交流について調べてみよう。